

北朝鮮における言語政策

——金正日の「第4次談話」・『主体文学論』5章6節の翻訳⁽¹⁾——

文 嬉 眞

北朝鮮では1994年7月8日の金日成死亡後、その後継者となる金正日が最高指導者として新体制を造り出した。その後、2011年12月17日の金正日の急死によって、その体制も終焉を迎えた。筆者は、朝鮮半島における「言語の異質化」問題を考察する際に、上記の両者の言語政策を分析の対象とし、それについての検証を行っている。その分析の事前作業の一環として、当時実権を握っていた金正日の言語（論）観に対する政策的な面からの検討が必要となる。すなわち、金日成の言語（論）観をより体系化し、それを北朝鮮式の社会主義の建設に利用しようとする金正日の言語（論）観についての分析が不可欠なのである。

金正日は1990年代に入ると、本格的に北朝鮮の言語政策の方向性を提示し始める。それと並行して、朝鮮労働党の党機関紙などに1960年代に発表したとされる「金正日談話」⁽²⁾が相次いで掲載されるようになる。その中で、金正日の言語（論）観に関連する代表的な著作や談話としては、1992年に発行された『主体文学論』という著作と、1994年から1996年に亘って刊行された『文化語学習』と『朝鮮語文』などの文献に収録されている4つの「金正日談話」⁽³⁾などがある。

前号に引き続き、本稿では上記の「第4次談話」と『主体文学論』の第5章6節の全文翻訳および原文を掲載することとする。このような談

話を翻訳する理由としては、まず、日本の学界では朝鮮半島の政治や文化など諸々の事象に関する学術的な関心が急速に高まっている研究状況が挙げられる。その研究状況と連動して、韓国と北朝鮮との間における「言語の異質化」に対する関心も高まってきていると思われる。その点と相まって、北朝鮮の言語政策に関する第一次的な資料の翻訳とその提示は、朝鮮半島の一国家・二体制における言語変動の動向分析に寄与するとともに、その分野の研究状況を促進する意味を有している。

そして上述のような研究状況の下で、南北両側の言語学的な発展事情やその変遷・変化に関心を持っている言語学者らにとって、以下の原文および訳文の掲載は、一定の研究状況の改善を図る際に、それが学際的貢献につながると思われる。その上、その提供された資料に基づき、南北両域の言語研究が活発に行われることにもつながれば、現在のような同分野における研究状況の空隙を埋めることが可能となるとも考えられる。最後に上記の原文を翻訳するに当たって、筆者が留意する点は、概ね前稿⁽⁴⁾と同様である。その際に1点だけ付け加えて置くと、本文中の〔〕内は、文章の理解を補うために、筆者が加筆したものである。

4. 〈1964年2月20日「第4次談話」訳文〉

「言語と民族問題」

金日成総合大学の学生との談話

1964年2月20日

偉大なる首領様が、去る1月3日になされた教示思想に基づいて言語と民族の相互関係の問題を討論することは非常に良いことです。

言語は、民族を特徴付ける最も重要な徴表の一つです。

在日同胞たちが、例え日本の地で暮らしていても、朝鮮民族となれるのは、言うまでもなく血統と言語が我々と同様であるからです。

言語は、民族問題と密接な関連の中で考察しなければなりません。一時、言語〔学に関する分野〕に少し精通しているとする或る者が、いわゆる「6子母」というものを造り出し、それを直ちに使おうと主張したことがありました。これは言語を民族問題と関連させて考察するのではなく、民族はどうなろうとも、〔後世に〕自分の名前を残そうとする功名主義的な思考方式から出てきたものでした。国が分裂されている状態の下で、万一我々が文字を〔新しく〕代えて〔それを文字として〕使えば、北と南の、我が民族が互いに出版物も読むことができず、手紙を出しても読めない厳しい結果を招くであろうし、それは祖国統一にも大きな難関を造り出すでしょう。

朝鮮の人は、一つの言語と文字を持つ単一民族です。言語と文字の共通性を保存しなければ、朝鮮民族の同質性や単一性を守っていくことができません。言語と文字の共通性を無くすことは、一つの民族を異質化させ、民族を分裂させる反民族的な行為となります。国が分裂されている今日、言語を民族問題と密接に関連させて考察することは単純に学術上の問題ではなく、祖国統一と関連された深刻な政治的な問題となります。

資料を見ると、南朝鮮と日本にいるブルジョア言語学者たちの中には、朝鮮語に対しては、いわゆる二つの「起源説」を主張する学者がいますと言われます。それは、高句麗系統の北の言葉と、新羅系統の南の言葉が、互いに異なる起源を持っている、ということです。

彼らは、幾つかの語句が似ているものを持っていることを根拠に、我が国の南部地方の言葉は、或る国の言葉と共通性があるとし、北部地方の言葉は、或る言語と同様の系統である、と主張している。だが、これは科学的な理屈にも合わない無理強い主張です。国々が互いに接境している辺境から、長い歴史的な交流過程で一部の語句が互いに浸透し合って、共通的に使われることもあるでしょう。しかしそれは、言語の民族的な共通性に比べれば、ごく些細なものです。そのような幾つかの語句

に縛られて我が民族語の単一性を否認しようとするのは言語道断です。このような主張は、本質においては我が民族が元来一つの民族ではなく、北と南が互いに異なる系統の民族であることを「論証」しようとする主張であり、我が民族の単一性と悠久性を否認し、民族の分裂策動を合理化するための詭弁です。朝鮮民族は、各異な起源を有する人々の、或る混血集団ではないです。我が民族は、昔から朝鮮の地で起源し、一つの血統を持ち、一つの言語を使いながら生きてきている単一民族です。現在、我々が使っている言葉は、昔から我々の祖先が使っていた固有の言葉であり、それは単一民族の悠久な歴史とともに発展・豊富化されて来ました。

我が言葉の単一性と固有性を科学的に明らかにしようとするれば、歴史的な言語資料を研究し、〔これらの〕現在の言語も言語史的な見地から深く研究しなければなりません。昔の文献や金石文には、我々の祖先が使っていた言葉と、その特性を明らかにするところに必要な言語資料があるでしょう。

言語資料に対する発掘・整理事業を忠実にこなして、様々な資料集と辞典も作り出さなければなりません。

方言研究にも注意を払わなければなりません。

方言研究では、各地方が持っている言語的な差異を明らかにすることに留まらず、我が民族語の単一性を論証するところに力を入れなければなりません。

我が国の各地方で使われている方言には、標準の言葉と合わない非文化的な要素もあるが、標準的な言葉にはない固有の我が言葉の語彙もあり、我が民族語の固有性と合法的な発展過程を見せてくれる言語資料もあります。方言を良く研究すれば、我が言葉を発展させるところに必要な固有の語根も探し出すことができるし、我が言葉の単一性を資料的にも、更に深く論証することができるでしょう。我が言葉について、そ

の単一性を方言的な資料を持って論証しようとするれば、国が分裂されている状況下では少し難しいかも知れないが、南朝鮮地域の方言も深く研究しなければなりません。

最近の歴史学界では、渤海に対する研究が深化されているが、渤海で使っていた言語も研究して見る必要があります。

朝鮮語の起源問題を科学的に解明しようとするれば、今日我々が使っている言葉の起源も明確にしなければなりません。我が言葉の語源を主体的な立場から明確にして置けば、朝鮮語の固有性が、更に明確に確証することになるでしょう。

朝鮮語の起源問題に対するブルジョア言語学者たちの誤った主張を粉碎し、我が言葉の固有性と単一性を深く掘り下げようとするれば、我が民族と歴史的に長く接触のあった女真、モンゴル、日本を始めとする周辺諸民族の言語に対しても関心を持たなければなりません。我が民族と交流が深かった諸民族の言語との対比の中で、我が言葉の固有性を明らかにして置けば、論証が更に深まるでしょう。

言語学の研究では、主体を徹底的に立てなければなりません。

主体的な立場に確実に立たなければ、言語現象を正しく分析することができず、我が民族語の単一性と固有性を深く掘り下げることもできません。

言語学の研究で主体を立てるということは、言語学研究で出てくる全ての問題を、朝鮮語の特性と朝鮮革命の利益に合わせて解いていき、祖国統一の偉業を実現し、我が国で社会主義、共産主義社会を成果的に建設するところに効果的に貢献できる言語学を建設し、発展させていくことを意味します。

言語学研究で主体を立てようとするれば、偉大なる首領様が朝鮮語の発展と関連して与えて下さった教示を徹底的に貫徹しなければなりません。

偉大なる首領様が、言語学部門に与えて下さった綱領的な教示を徹底

的に貫徹することこそが、すなわち言語学研究で主体を立てることになります。

偉大なる首領様が言語学を発展させることに対して行なった綱領的な教示を貫徹する闘争を力強く行なう時、我が言葉と言語学の発展には、画期的な転換が起こるでしょう。

(『文化語学習』、1995年2号、3-4)

4. 〈1964年2月20日「第4次談話」原文〉

「언어와 민족문제」

김일성종합대학 학생들과 한 담화

1964년 2월 20일

위대한 수령님께서 지난 1월 3일에 하신 교시사상에 기초하여 언어와 민족의호상관계 문제를 토론하는 것은 매우 좋은 일입니다.

언어는 민족을 특징짓는 가장 중요한 징표의 하나입니다.

재일동포들이 비록 일본땅에서 살지만 조선민족으로 되는것도 다름 아닌 피줄과 언어가 우리와 같기때문입니다.

언어는 민족문제와 밀접한 련관속에서 고찰하여야 합니다. 한때 언어를 좀 안다고 하던 어떤자가 이른바 《6자모》라는 것을 만들어 그것을 곧 쓰자고 주장해 나섰던 일이 있었습니다. 이것은 언어를 민족문제와 관련시켜 고찰할 대신 민족이야 어떻게 되는 자기의 이름이나 남겨 보려는 공명주의적사고방식에서 나온 것이였습니다. 나라가 분열되어 있는 상태에서 만일 우리가 문자를 고쳐 쓴다면 북과 남의 우리 민족이 서로 출판물도 읽을수 없고 편지를 해도 알수 없는 엄중한 후과를 가져오게 될것이며 그것은 조국통일에 커다란 난관을 조성하게 될 것입니다.

조선사람은 하나의 언어와 문자를 가진 단일민족입니다. 언어와 문

자의 공통성을 보존하여야 조선민족의 동질성, 단일성을 지켜나갈 수 있습니다. 언어와 문자의 공통성을 없애는 것은 하나의 민족을 이질화하고 민족을 분열시키는 반민족적행위로 됩니다. 나라가 분열되어있는 오늘 언어를 민족문제와 밀접히 연관시켜 고찰하는 것은 단순히 학술상의 문제가 아니라 조국통일과 연관된 심각한 정치적인문제로 됩니다.

자료를 보니 남조선과 일본에 있는 부르조아언어학자들속에서는 조선어의 이른바 두 개 《기원설》을 주장하는자들이 있다고 합니다. 고구려계통의 북쪽말과 신라계통의 남쪽말이 서로 다른 기원을 가지고있다는것입니다. 그들은 몇 개의 말마디들이 비슷하다는 것을 가지고 우리나라 남부지방의 말은 어느 나라의 언어와 공통성이 있소, 북부지방의 말은 어느 언어와 같은 계통이요 하고 주장하고 있는데 이것은 과학적리치에도 맞지 않는 억지주장입니다. 서로 접경해있는 나라들의 변방에서 오랜 역사적교류과정에 일부말마디가 서로 침투하여 공통적으로 쓰일수도 있을것입니다. 그러나 그것은 언어의 민족적공통성에 비하면 극히 보잘것없는것입니다. 그러한몇 개의 말마디들에 매달려 우리 민족어의 단일성을 부인하려는 것은 언어도단입니다. 이러한 주장은 본질에 있어서 우리 민족이 원래 하나의 민족이 아니라 북과 남이 서로 다른 계통의 민족이라는 것을 《론증》하려는 생억지이며 우리 민족의 단일성과 유구성을 부인하고 민족분열책동과 식민지화책동을 합리화하기 위한 궤변입니다. 조선민족은 각이한 기원을 가진 사람들의 그 어떤 혼혈집단이 아닙니다. 우리 민족은 옛날부터 조선땅에서 기원하여 하나의 피줄을 가지고 하나의 언어를 쓰면서 살아온 단일민족입니다. 지금 우리들이 쓰는 말은 옛날부터 우리 선조들이 쓰던 고유한말이며 그것은 단일민족의 유구한 력사와 함께 발전풍부화 되어왔습니다.

우리 말의 단일성과 고유성을 과학적으로 밝히자면 력사적인 언어자료를 연구하고 오늘의 언어도 언어사적견지에서 깊이 연구하여야 할것입니다. 옛날 책이나 금석문에는 우리 선조들이 쓰던 말과 그 특성을

밝히는데 필요한 언어자료가 있을것입니다.

언어자료에 대한 발굴정리사업을 잘하여 여러가지 자료집과 사전도 만들어내야 합니다.

방언연구에도 주의를 돌려야 합니다.

방언연구에서는 지방마다 가지고있는 언어적차이를 밝히는데 그칠것이 아니라 우리 민족어의 단일성을 론증하는데 힘을 넣어야 합니다.

우리나라의 여러 지방에서 쓰이는 방언에는 표준말과 맞지 않는 비문화적인요소도 있지만 표준적인 말에는 없는 고유한 우리말 어휘도 있으며 우리 민족어의 고유성과 합법칙적인 발전과정을 보여주는 언어자료도 있습니다. 방언을 잘연구하면 우리말을 발전시키는데 필요한 고유말 어근도 찾아낼수 있고 우리말의 단일성을 자료적으로 더욱 깊이 있게 론증할수 있을 것입니다. 우리 말의 단일성을 방언학적인 자료를 가지고 론증하려면 나라가 분열된 상태에서 좀 어렵기는하겠지만 남조선지역의 방언도 깊이있게 연구하여야 합니다.

최근 역사학계에서 발해에대한 연구가 심화되고 있는데 발해에서 쓰던 언어도 연구해볼 필요가 있습니다.

조선어의 기원문제를 과학적으로 해명하려면 오늘 우리가 쓰고있는 말의 어원도 잘 밝혀내야 합니다. 우리 말의 어원을 주체적립장에서 명백히 밝혀놓으면 조선어의 고유성이 더욱 뚜렷히 확증하게 될것입니다.

조선어의 기원문제에 대한 부르쵸아언어학자들의 그릇된 주장을 분쇄하고 우리말의 고유성과 단일성을 깊이있게 밝히려면 우리 민족과 역사적으로 오래동안접촉이 있었던 녀진, 몽골, 일본을 비롯한 주변민족들의 언어에 대해서도 관심을 돌려야 합니다. 우리 민족과 교류가 깊었던 민족들의 언어와의 대비속에 우리말의 고유성을 뚜렷이 밝혀놓으면 론증이 더 깊이 있게 될것입니다.

언어학연구에서 주체를 철저히 세워야 합니다.

주체적립장에 확고히 서야 언어현상을 옳게 분석할수 있고 우리 민족어의 단일성과 고유성을 깊이있게 밝혀낼 수 있습니다.

언어학연구에서 주체를 세운다는 것은 언어학연구에서 나서는 모든 문제를 조선어의 특성과 조선혁명의 리익에 맞게 풀어나가며 조국통일 위업을 실현하고 우리 나라에서 사회주의, 공산주의 사회를 성과적으로 건설하는데 효과적으로 이바지할수 있는 언어학을 건설하고 발전시켜나간다는 것을 말합니다.

언어학연구에서 주체를 세우자면 위대한 수령님께서 조선어의 발전과 관련하여 주신 교시를 철저히 관철하여나가야합니다.

위대한 수령님께서 언어학부문에 주신 강령적교시를 철저히 관철하는 것이 곧언어학연구에서 주체를 세우는것입니다.

위대한 수령님께서 언어학을 발전시킬데 대하여 하신 강령적교시를 관철하는투쟁을 힘있게 벌릴 때 우리말과 언어학 발전에서는 획기적인 전환이 일어날 것입니다.

(『문화어학습』, 1995년 2호, 3-4)

5. 〈『主体文学論』 5章 6節 訳文〉

「言語形象に文学の秘訣がある」

1992年

文学は、言語の芸術である。文学は、専ら言語を通して人間の間の生活を描き、思想・感情を伝えるものであるので、読み手が作家の流暢な言語使いに惹き付けられて一文章、一文字を吟味し、心に刻まれるようにしなければならない。如何なる大きな思想を植え付けて置いても、文章を読む時に味がなければ、読者の心を惹き付けることはできない。

今まで言語形象に詳しくない作家が、思想・芸術的に成功した作品を書き出した例はない。古今東西の名高い作家は、全員が言語の達人であ

って、民族語の発展の開拓者であった。我が国にも言語の芸術家として輝かしい財宝を残した作家が多くいる。

不朽の古典的な名作を始めとする抗日革命文学は、我が言葉の主体性と民族性を具現し、人民大衆の自主的な要求に合う言語の機能を独創的に発展させた、輝かしい見本を創造した。不朽の古典的な名作に出てくる台詞と詩の句節は、我が文学が代々に継承・発展させるべき高貴な言語遺産である。作家は、我が文学の輝かしい言語伝統を受け継ぎ、文学の言語形象の水準を高めるところに決定的な転換を引き起こさなければならない。

言語探求と形象では、主体的な立場を確固に堅持する問題が最も重要である。

言語は、人間生活における力のある手段である。人間の活動は、言語を離れては成り立たず、社会的な存在としての人間の相互関係は、言語の役割と切り離しては考えられない。言語は人民大衆の自主性を実現するための闘争〔過程〕で、力のある武器となる。言葉と文章があつてこそ、人々は主体形の人間として、教養のある事業も可能となり、経済と文化、科学と技術を発展させ、自然と社会、人間を主体の要求通りに改造して行くことができる。言語は、民族性を固守し、それを発展させるところに非常に重要な作用をする。血統とともに言語が同じでなければ、同じ民族と言えず、自己言語の純潔性を守っていく民族のみが、自主的に発展することができる。民族語が民族の存亡と関連する死活的なものの一つになるために、帝国主義者たちは他国を侵略する度に、母国語の抹殺政策を強要する。我々は、米帝国主義の侵略者たちが追求している北と南の間の民族異質化の策動を決定的に打ち砕き、我が民族語の純潔性と共通性を守るための闘争を積極的に行なわなければならない。

作家は、言語問題が単純に作品の形象問題ではなく、自己民族、自己人民の自主性とも関連する重要な問題であるということを深く心に刻

み、何時も主体的な立場から語彙を選び、文章を練るべきである。

言語形象で主体的な立場を堅持しようとするれば、人民大衆の意思と要求に合う言語を探求し、それを生かして使わなければならない。

我が人民の感情と美感に合う言葉で話し、文章を書くことが、すなわち言語での主体を立てることになる。文学の言語形象は、個別的な人々の言語行為とは異なる点を持っている。作品での言語は、人民大衆を対象に書かれるために、作家は何時も人民と対話する立場から言語を探求しなければならない。

文学言語は、分かり易いものでなければならない。文学作品は、異なる文化水準を有する平凡な人民大衆が、誰でも見て分かるように優しい言葉で書かれなければならない。言語の通俗性は、文学作品の人民性を規定する重要な表徴の一つである。人民は、分かり易い言葉で生活の真理を表現することが出来る作家を愛し、それに従う。

文学の言語は、文化的でなければならない。文学作品を人民大衆の興味に合わせようとするれば、分かり易く、高い文化性を持たなければならない。文学言語の文化性は、様々な側面から現われる。

作品の言語は、表現が正確でなければならない。一つの作品の中で或る一つの対象を表現する時、最も相応しい表現は一つしかない。数多くの似ている表現の中で、その対象に最も的確な一つの表現を探し出すところに、作家の才能がある。〔それは〕対象の本質に命中させる的確な語彙を探し出す作家の努力に対して、山のような金鉱の捨て石の中で、一粒の金を得ることと比較する場合もある。文章を練る際に、尽力する作家のみが、宝石のように輝かせる正確な単語と表現を探し出すことができる。我々の文学は、文化語規範を守るところを模範としなければならない。我が言葉の規範は、民族語の特徴と要求を一般化し、全ての人々が共同で守るべきである言語の使用準則を規制している。言語規範に合わない不正確な言葉は、社会の言語規範化を確立するところに悪い影響

を与える。

文学の言語は、正確であると共に簡潔かつ明瞭でなければならない。文章を簡潔かつ明瞭なものにしようとすれば、無意味な説明を付け加えることをなくさなければならない。不朽の古典的な名作である、革命歌劇『花売り処女』⁽⁵⁾に出てくる、「中天に出ている月は、一つであるにも拘わらず、地上で見る人々の心は、互いに異なる」という詩文章や、映画文学『軍党責任秘書』⁽⁶⁾に出てくる、「忠臣も我々の側に居て、奸臣も我々の側に居る」という台詞のようなものは、表現こそ簡潔であるものの、多くのものを考えさせる。文学の言葉は、その一つずつが十、百個の言葉でも代えられないもので含蓄され、明白な表現として繋げられなければならない。

言語の文化性を高めようとすれば、古い時代が残した非文化的な言語をなくさなければならない。言語は、長い年月、世代を受け継いで来たものであるために、そこには古い遺物が少なからず残っている。古い言語慣習は、簡単には直すこともできない。言語に残っている古い時代の汚物を抉り出し、新たな言語文化を建設するのは、一つの革命である。作家は、言語革命を先導する旗手になって、多くの俗的かつ非文化的な言語を無くす際に、前面に立たなければならない。

言語形象で人民大衆の要求を具現しようとすれば、人民が日常的に使う口語を作品に積極的に受け入れることが重要である。人民的な口語の中にある良い点を文語の中で広く受け入れ、文語と口語の差異を縮めるのは、我が言葉を主体的に発展させるための重要な課業の一つである。民族語は、元来口語から生まれたのであり、口語に基づいて文語が発展した。過去には文字と言葉が支配階級の所有物になっていることから、支配階級の手掌握された文語と人民が広く使う口語の間には、様々の甚大な差異が生まれるようになった。人民大衆が文字と叙事生活の主人公となった今日の条件下で、古い時代が残して置いた口語と文語のほど

い差異を、そのまま置くことはできない。文筆家たちは、人民が使ってきた口語の豊富で優秀な要素を積極的に受け入れ、文語を更に発展させなければならない、文語を口語より文明なものにするところに先導的な役割を果たさなければならない。我が人民が長い歴史を通して創造し、練って来ている口語は、我が文学の言語を豊かにする無尽蔵の源泉である。作家は、人民たちの中に入って、虚心坦懐かつ真摯な態度を持って彼等が使う言語を根気よく学ばなければならない。人民的な言語の中で、高尚で美しい表現を探し出し、〔その中から〕選んで使う時に、始めて大衆に理解され受け入れられる立派な言語形象を創造することができる。

言語形象で主体的な立場を堅持しようとするれば、固有の我が言葉を積極的に生かして使うところにも力を入れるべきである。

固有語は、他の民族語の侵襲を受けずに、その民族が代々に創造し、発展させて来た民族的な特性を最も明確に有する言語である。固有語は、民族語が基本を成している。固有語は、民族の固有な心理と情緒をそのまま反映した言語要素なので、文の民族的な色彩を高め、民族的な情緒を高めるところに効果的である。我々の固有語は、語感が豊富で繊細な情緒的な色彩を持っており、その表現が多様であって、音色の響きが美しいので、文学作品の形象性と抒情性を活かす最も的確な言語手段となる。我々の固有語に基づいて書かれた作品を見ると、概ね抒情が色濃く斬新な形象的な味を出している。不朽の古典的名作、『思郷歌⁽⁷⁾』は、我々の固有語を利用して豊富な形象美と郷土的な抒情美を醸し出す見本的な作品である。我が故郷を離れる時、我が母親が門の前で涙を流しながら「行っていっちゃい」と言っていた言葉が耳に強く残っていると詠う一節や、我が家から遠くないところに出て行けば、小川に水が流れ、幼い弟たちが遊び回る姿が目には焼き付いている、と詠っている二節は、全て我々の固有語に基づいて人々の胸中で愛しい故郷と祖国の山川に対する身に染みる愛情の感情を掻き立てている。我々の文学作品は、全て固

有語の味わい深いものにし、真実に満ちている朝鮮式作品でなければならない。

固有語を生かして使うこととともに、外来語と漢字語をできるだけ、新たに練った我が言葉に代えて使わなければならない。

世界において、他国の言葉が流れて来ない日は殆どない。特に帝国主義者たちの植民地であった国や、大きな国々の間に挟まっている小さい国の場合には、他国の言葉と文章の侵襲をもっと多く受けるようになる。このような国々から他国の言葉と文の残滓を亡くさなくては民族語の純血性を守ることができない。

我が国では、今固有の我が言葉を積極的に活かす一方、過去に我が言葉の中に流れ込んでいる外来語と漢字語の整理事業が力強く行われている。これは、我が言葉の民族的な特性を固守する面と、北と南の間に言語の異質化を防ぐことにも重要な方法となる。現在、南朝鮮では民族語がかなり抹殺されており、北と南の同胞が、互いに長らく分断されて暮らしている状況の中で、言語交流が行えなかったので、言語の共通性が失われる危険が造成されている。このような時に北は北なりに、南は南なりに人民の言語生活を自然発生性に任せて置くと、近い将来には民族の基本徴表である言語の単一性を失ってしまうこともあり得る。例えば、言語交流がない条件でも北と南が同じ一つの基準、一つの原則を立てて、言語を発展させるならば、そのような事態は未然に防ぐことができる。北と南が同様に、固有の朝鮮語を基準とし、言語の基本軸を立てて、外来語と漢字語を整理し、我が言葉に代える原則から言語を発展させるならば、言語の異質化を未然に防ぎ、その純潔性を守ることができるであろう。昔から固有の朝鮮の言葉は、共和国の北半部でも広く使われて来っており、南朝鮮でも広く使われて来ているが、米帝国主義によって国土が分裂されてから事情が変わって来た。今日、南朝鮮では我が言葉は、その純粋性が次第に失われ、乱雑な言葉に変わっている。

解放前まで「標準語」として使ったソウルの言葉も変質され、英語、日本語、漢字語だらけになり、言い回しと抑揚が我が民族の伝統的な美感に合わない可笑しいものに変化した。共和国の北半部のみでは我が党の正しい言語政策によって、昔から使って来た固有の朝鮮の言葉が純粹に生き残っており、時代の要求に合わせて発展した。革命の首都である平壤は、我が言葉と文字の民族的な特性を最も純潔に固守して発展させた文化語の中心地である。新しく発展した今日の平壤の言葉を基準にすれば、我が言葉の純潔性と主体性を活かしながら、それを健全に発展させることができる。平壤文化語は、共和国の北半部における全体人民の共同努力によって創造され、つくられて来ている我が民族語の優秀な言語要素を集大成している。またソウルの言葉を始めとし、南朝鮮の各地で伝統的に使って来ている美しい民族語の要素も吸収して発展させたものである。南朝鮮の同胞たちと海外の同胞たちが平壤を訪問する度に、平壤文化語の優秀性に対して賛辞を惜しまないのは偶然ではない。作家は我が党の言語政策の正当性を誰よりも深く認識し、平壤文化語を積極的に活かさなければならない。

作品を創作する際に、外来語と漢字語を多く使う傾向は、作家の古い言語観念と関連している。過去に我が国の封建士大夫たちは、国文を軽視し、漢文を崇拝しながら、漢文を多く知る人物、漢字語を多く使う人を有識な人物として見なした。このような古い観念は、解放後の我が民族語の発展に少なからぬ妨げとして作用し、今日までもその残滓が完全に無くならずに残っている。

外来語と漢字語を少なくしようとすれば、洗練された我が言葉を多く知らなければならない。現在、体系的に外来語と漢字語を我が言葉に書き直しているが、その書き直した言葉を大衆の中に普及する際には作家の位置が重要である。作家は、多くの書き直した言葉を知り尽くして作品に広く利用しなければならない。新たに書き直した言葉が出たら、作

家たちが先に作品に受け入れなければならない。

言語探求と形象において主体的な立場を徹底的に守ろうとすれば、偉大なる首領様の革命的文風を学習しなければならない。

偉大なる首領様は、絶え間なく思想理論活動と文筆活動をなさる過程で我が時代の最も革命的であり、人民的な文風を創造なさった。首領様の文風は、我が言葉と文を人民大衆の要求に合わせて自主的に発展させるところに必要な原則的な要求を最も崇高な視点から解決し、完成した革命的かつ人民的な文風の亀鑑である。

首領様の文風を学習するためには、首領様の独創的な言語思想と理論で武装しなければならず、首領様の教示と労作を多く読み込んで、文章の単語表現の妙味を原理的に深く習得しなければならない。作家は首領様の教示と労作の中から、〔以下の〕我が言葉の民族的な特性を全面的に発揚させた側面、党的であり労働階級的な見地から問題を提起し、〔それを〕深く解明した側面、人民が分かり易い言葉を用いて深い意味を表現した側面、独創的な新しい表現を探求した言語駆使の輝かしい模範を創作に積極的に具現しなければならない。

言語探求と形象では、事実主義の原則を徹底的に具現することが重要である。

言語は、事実主義と反事実主義、進歩的な文学と反動文学の境界線を引く重要な分岐点である。歴代的に芸術至上主義者たちと形式主義者たちは内容と分離された「純粹形式」云々と言いながら、言語問題を基本問題として前面に出し、詭弁を並べ立てた。今日も彼等は、内容と形式、思惟と言語に対する形而上学的な主張に固執している。我が作家たちは、言語問題をめぐって事実主義的な原則を固守するところに格別な注意を払わなければならない。

言語駆使の事実主義的な原則からすれば、基本は内容と形式の有機的な統一を保障することである。

内容は、見るべきものがないにも拘わらず、言語のみをもって小細工を施している作品は、形式主義的な作品である。生活に対する深い探求がないにも拘わらず、作品に入れ込む思想・感情と生活内容が貧弱な作家たちが、よく下手な言語遊びに取り縋る。内容のないものに、言葉遊びで隠して化粧を塗るのは大衆を欺くものである。その反面、表現したい言葉も多くあって、意義のある思想を話そうと努力するにも、言葉が足りず表現できない作家は、言語の芸術家としての資格を喪失した人である。言語探求に力を入れない作品は、内容を読む気もしない。〔例えて言えば〕容器が良ければ、その中に盛られている食べ物も食欲をそそるものである。言葉の味が、作品や言語の未熟な作品と文学の思想・芸術性を落とすことと同様である。

言語駆使で、内容と形式の有機的な統一性を保障しようとするれば、生活に対する深い探求と深奥な思索が必要である。生活は、作家に内容を提供し、内容はそれに沿う形式を要求する。立派な言語表現は、虚空から生まれるものでなく、生活に対する深い探求と思索過程で発見される。生活に対する知識が無く、思想・感情が枯れて、主義主張が明白でない作家の場合、何時まで経っても、深くかつ機知のある表現は思い浮かばない。作家は、言葉をもって小細工を考えるのではなく、自分自身が表現しようとする対象を、実際に見ることが出来なければならず、その本質と意義に対する他人とは異なる把握を備えなければならない。人は、自分が知っている程度の表現はできる。一人の人間が持っている言語の総量とは、認識と思惟の総量と同様である、という言葉がある。自分からは見ることができない対象、自己からは把握することができない本質は、その如何なる美辞麗句を使っても、人々に伝わらない。したがって、立派な言語形象を創造するための探求の最初の工程は、いつも描写対象に対する豊富な体験と認識から始めなければならない。

言語形象に深い意味を込めなければならない。言語形象に深い意味を

込めることそれ自体が、内容と形式を高い水準で結合させることを意味する。名文章、名表現、名台詞の基本表徴は、意味が深いところにある。したがって、文章の中に文章があつて、言葉の中に言葉があるとされる。文学の言語は、深い意味を込める名文章、名表現、名台詞でなければならない。文章と表現の中に深い意味を込められる才能は、生活の意義を深くかつ幅広く把握し、簡潔に表せる作家のみから見られる。

作家は、台詞の形象に格別な注意を払わなければならない。映画文学と小説で台詞を乱発する現象があるが、これは映画と小説の基本形象の手段に対する正しい観点に立っていないところもあるが、基本は作家の思想的な意図を映画の行動線や小説の描写で解決できず、台詞を通して直線的に露出させるために、台詞が必要以上に多くなるものの、重量感があつて、哲学的な深さのある台詞はあまり見られない。台詞を意のまま乱用することをなくさなければならない。

言語駆使で、内容と形式の有機的な結合を保障するためには、情況と対象に合う表現を探求しなければならない。我が文学の主人公たちは、政治性と人間性が結合された人間である。台詞形象は、人物の政治理念と個性を集中的に反映すると同時に、対話する時の周囲の雰囲気と環境にきちんと合わなければならない。描写文、主情吐露文、説明文のような作家の言葉である場合も同様である。作家の言葉は、その一つずつが、対象とそれが置かれている状況、作家の思想・感情、そして作品の様相に全面的に符合する表現でなければならない。作家の言葉だからと言って、主観的になってそのままにしまうと、対象と状況を誇張することもし、矮小化することも有り得るのであり、結局内容と形式の不一致を招くこともある。

該当期の生活と時代を鮮明にし、真摯に見せようとするれば、その時代語の言語生活を正確に反映しなければならない。作家の言葉である場合、歴史物であるとしても、全的にその時期の言語をそのまま使うこと

はできない。歴史物で用いる作家の言葉は、今日の朝鮮文化語を使いながら、該当の歴史的時代の常用語彙と常用の言い回しを時代的な象徴として浮かび上がらせるものとして見せる程度に利用しなければならない。時代に合う言語生活を反映する際に特別によく選んで使うものである。過去のある時期の生活を、今日の視点で把握し、意義のあるように描写しなければならないものの、歴史主義的な原則を離れて、存在しなかったものを造り出すとか、存在しなかったものを勝手に改作して出しては絶対に駄目である。

言語駆使の事実主義原則を具現するところには個性的かつ斬新な表現を探究することも重要である。

日常生活で人々の思想・感情と文化・道徳の水準、職業と知識の程度、嗜好と趣味が類似した言葉を通して表現されるように、作家の世界観と創作的な個性も、言語を通してそのまま現われる。言語は、人々の心の中を覗かせる役割をし、外に向けて照らし出す「窓」でもあると言える。文学の言語は、公式的な事務分野と新聞報道や、科学技術分野の言語と違って、生動感があって、情緒のある個性的な特性を持っている。このような形象的な特徴の中でも、主となるものは、個性的な特徴である。言語は個性化されれば、生動感が出て情緒も入り込む。言語形象の個性化は、他人とも異なる独特な言い回しをするか、独特に表現しようとする意図によって成り立つものではなく、体験した事実と感じ取る思想・感情を真実のままより正確に、より明白に現そうと試みる過程で成り立っている。文学の言語は、個性化されればされるほど、独創性と斬新性が多く左右される。文学作品では、言語が斬新でなければ、それに入る内容も斬新でなくなる。

作家は、他の作品で使った表現は、原則的に再び使ってはならない。幾ら芸術的かつ洗練された名文章、名台詞であっても、一回以上の価値を持ち得ず、それが全ての作家の絶対的な基準になることもない。作家

はできれば、奇抜な着想を試み、斬新な表現と語彙を選んで使わなければならない。不朽の古典的な名作『3人1党』⁽⁸⁾の中で、3人の大臣が互いに権力闘争を繰り広げる際の、言葉の喧嘩の場面は、台詞を個性化した良い実例である。三つの党派に属している軍隊を統合することが白馬国の侵入を防ぎ、国を救う唯一の道である、と主張する朴大臣の台詞と、強弱が異なる状況では大きな国に援兵を要請するのが賢明な方策である、と主張する文大臣の台詞や、危急時には一歩離れて事態を收拾し、力を蓄えなければならない、と主張する崔大臣の台詞は、全てが人物の性格的な特徴を表現する仮性的な言葉になっているので、互いに龍床〔最高権力者の玉座〕に座ろうと懐柔と権謀術数、詐欺と誤魔化し、背信と売国をしながら、恐ろしい角逐戦を繰り広げる3大臣の表裏不同な姿をリアルに現している。人々は、この場面を舞台で直接に見ずに、台詞のみを読んで見るだけでも、大きな体でいざとなったら刀を真っ先に持ち出しそうな武官型の無知な朴大臣や、事あるごとに王族出身であると紳士ぶってはいるものの、実は腹黒い文大臣と、狡猾かつ毒々しい崔大臣の性格的な特徴をリアルに思い描くことができるであろう。

我が文学で、言語形象の個性化を確固たるものとして保障するための決定的な方法は、作家たちが自分の独特な文体を確立することである。今、我が国には自分の明確な文体を持っている作家が少ない。自己文体を持っていない作家は、本物の作家ではない。作家であるならば、自己の明確な言語的な個性を持ち、創作〔活動上〕では毎回、他人と区別される独特の言語形象を持ち出さなければならない。

叙事詩の『白頭山』⁽⁹⁾を詠んだ趙基天(조기천)⁽¹⁰⁾は、自己文体を持っている才能ある詩人であると言える。彼が書いた詩的な表現は、非常に独特かつ奇抜なものであるために、誰もそれを模倣することができない。そのまま剽竊せずに、それと若干似ている味を匂わす表現で表わしても、直ぐに彼の詩的な表現を模倣したことが現われうる。作家は、誰も模倣することが

できない自己の顔、自己の固有の言語畑を持って文壇に出なければならぬ。

作家が自己の文体を持ち、斬新な言語形象を創造するのは、資質と器量に掛かっている。

言語駆使の秘訣は、全的に作家の才能に掛かっている。豊富な表現力と一般化の可能性を秘めている言語手段の威力は、作家自身が如何なる方法で、如何なる水準で利用するかによって決定される。作家は、形象手段と手法とに精通している時にのみ、それを自己の意図に合わせて充分に利用することができるのであり、その過程で自己流の言い回しを身につけるようになる。作家こそ、最も多くの語彙の所有者、言語駆使の名手でなければならない。

(『文化語学習』、1993年2号、3-8)

5. 〈『主体文学論』 5章6節原文〉

「언어형상에 문학의 비결이 있다」

『주체문학론』 1992년

문학은 언어의 예술이다. 문학은 오직 언어를 통하여 인간과생활을 그리며 사상감정을 전달하는것만큼 읽는 사람들이 작가의 능란한 언어 솜씨에 매혹되어 한문장한문장 눈을 밝혀가며 새겨나갈수 있게 되어야 한다. 아무리 큰 사상을 심어놓아도 문장이 읽을 맛이 없으면 독자의 마음을 끌수 없다.

지금까지 언어형상에 밝지 못한 작가가 사상예술적으로 성공한 작품을 써낸 레는 없다. 동서고금의 이름있는 작가는 다 언어의 능수였으며 민족어발전의 개척자였다. 우리 나라에도 언어의예술가로서 빛나는 재보를 남긴 작가가 많다.

불후의 고전적명작을 비롯한 항일혁명문학은 우리말의 주체성과 민

죽성을 구현하고 인민대중의 자주적요구에 맞게 언어의 기능을 독창적으로 발전시킨 빛나는 본보기를 창조하였다. 불후의 고전적명작에 나오는 대사와 시구절은 우리 문학이 대를 이어 계승발전시켜 나가야 할 고귀한 언어유산이다. 작가는 우리 문학의 빛나는언어전통을 이어받아 문학의 언어형상수준을 높이는데서 결정적인 전환을 일으켜야 한다.

언어탐구와 형상에서는 주체적립장을 확고히 견지하는 문제가 가장 중요하다.

언어는 인간생활의 힘있는 수단이다. 인간의 활동은 언어를 떠나서 이루어질수 없으며 사회적존재로서의 인간의 호상관계는 언어의 역할을 떠나서 생각할수없다. 언어는 인민대중의 자주성을 실현하기 위한 투쟁에서 힘있는 무기로 된다. 말과 글이 있어야 사람들을 주체형의 인간으로 교양있는 사업도 잘할수 있고 경제와 문화, 과학과 기술을 발전시켜 자연과 사회, 인간을 주체의 요구대로 개조해나갈수 있다. 언어는 민족성을 고수하고 발전시키는데서 매우 중요한 작용을 한다. 피줄과 함께 언어가 같아야 한민족이라고 말할수 있으며 자기 언어의 순결성을 지켜나가는 민족만이 자주적으로 발전할수 있다. 민족어가 민족의 존망과 관련되는 사활적인것의 하나로 되기 때문에 제국주의자들은 다른 나라를 침략할 때마다 모국어말살정책을 강요한다. 우리는 미제침략자들은 추구하고있는 북과 남사이 민족이질화책동을 결정적으로 짓부시고 우리 민족어의 순결성과 공통성을 지키기 위한 투쟁을 적극벌려야 한다.

작가는 언어문제가 단순히 작품의 형상문제인 것이 아니라 자기민족, 자기 인민의 자주성과도 관련되는 중요한 문제라는 것을 깊이 명심하고 언제나 주체적립장에서 어휘를 고르고 문장을 다듬어야 한다.

언어형상에서 주체적립장을 견지하자면 인민대중의 의사와요구에 맞는 언어를 탐구하고 살려써야 한다.

우리 인민의 감정과 미감에 맞게 말하고 글을 쓰는 것이 바로 언어에

서 주체를 세우는것이다. 문학의 언어형상은 개별적인사람들의 언어행위와는 다른 점을 가지고 있다. 작품에서 언어는 인민대중을 대상하여 켜여지는것만큼 작가는 언제나인민과 말하는 입장에서 언어를 탐구하여야 한다.

문학언어는 알기 쉬워야 한다. 문학작품은 각이한 문화수준을 가진 광범한 인민대중이 누구나 다 보고 알수 있게 쉬운 말로 켜여져야 한다. 언어의 통속성은 문학작품의 인민성을 규정하는 중요한 표징의 하나이다. 인민은 알기 쉬운 말로 생활의 진리를 표현할 줄 아는 작가를 사랑하며 따른다.

문학의 언어는 문화적이어야 한다. 문학작품이 인민대중의 구미에 맞으려면 알기 쉬우면서도 높은 문화성을 가져야 한다. 문학언어의 문화성은 여러 측면에서 나타난다.

작품의 언어는 표현이 정확하여야 한다. 한 문학작품에서 어느 한 대상을 표현하는데 가장 알맞은 표현은 하나밖에 없다. 수많은 비슷한 표현 가운데서 그 대상에 가장 적중한 하나의 표현을 찾아내는데 작가의 재능이 있다. 대상의 본질을 명중하는 적중한 어휘를 찾아내는 작가의 노력에 대하여 산더미 같은 금광의 버럭속에서 한알의 금싸레기를 얻어내는 일과 비교하는 경우도 있다. 문장을 다듬는데 뼈심을 넣는 작가만이 보석처럼 빛을 내는 정확한단어와 표현을 찾아낼수있다. 우리의 문학은 문화어규범을 지키는데서 모범이 되어야 한다. 우리 말 규범은 민족어의 특징과 요구를 일반화하여 모든 사람이 공동으로 지켜야 할 언어 사용준칙을 규제하고있다. 언어규범에 맞지 않는 부정확한 말은 사회의 언어규범화를 확립하는데 해로운 영향을 준다.

문학의 언어는 정확하면서도 간결하고 명료하여야 한다. 글이 간결하고 명료하게 되려면 쓸데없이 설명을 덧붙이는 일이 없어야 한다. 불후의 고전적명작 혁명가극『꽃파는 처녀』에 나오는 하늘중천에 솟은 달은 하나이건만 땅위에서 보는 사람들의 마음은 서로 다르다는 시문장

이나 영화문학『군당책임비서』에 나오는 충신도 우리 곁에 있고 간신도 우리 곁에 있다는 대사 같은 것은 표현이 간결하지만 많은것을 생각하게 한다. 문학의 언어는 그 하나하나가 열, 백마디의말로도 대신할수 없는 함축되고 명백한 표현으로 이어져야 한다.

언어의 문화성을 높이자면 낡은 시대가 남겨놓은 비문화적인 언어를 없애버려야 한다. 언어는 오랜 세월 세대를 이어 물려온것이기때문에 거기에는 낡은 유물이 적지않게 남아있다. 낡은 언어관습은 쉽사리 고쳐지지도 않는다. 언어에 남아있는 낡은 시대의 오물을 걷어내고 새로운 언어문화를 건설하는 것은 하나의 혁명이다. 작가는 언어혁명을 선도하는 기수가 되어 온갖 속되고 비문화적인 언어를 없애는데 앞장서야 한다.

언어형상에서 인민대중의 요구를 구현하자면 인민이 늘 쓰는 입말을 작품에적극 받아들이는 것이 중요하다. 인민적인 입말에 있는 좋은 점을 글말에 널리받아들여 글말과 입말의 차이를 줄이는 것은 우리말을 주체적으로 발전시키기 위한 중요한 과업의 하나이다. 민족어는 원래 입말로부터 생겨났으며 입말에 기초하여 글말이 발전하였다. 지난날에는 문자와 글이 지배계급의 소유물로 되고있는데로부터 지배계급의 손에 장악된 글말과 인민이 널리 쓰는 입말사이에는 여러가지 심한 차이가 생겨나게 되었다. 인민대중이 문자와 서사생활의 주인으로 된오늘의 조건에서 낡은 시대가 남겨놓은 입말과 글말의 심한 차이를 그대로 둘수없다. 문필가들은 인민이 써오던 입말의 풍부하고 우수한 요소를 적극 받아들여 글말을 더욱 발전시켜야 하며 글말이 입말을 보다 문명한 것으로 만드는데서 선도적역할을 하도록 하여야 한다. 우리 인민이 오랜 역사를 통하여 창조하고 다듬어온 입말은 우리 문학의 언어를 기쁨지게 하는 무진장한 원천이다. 작가는 인민들속에 들어가 허심하고 진지한 태도를 가지고 그들이 쓰는언어를 꾸준히 배워야 한다. 인민적 언어에서 고상하고 아름다운 표현을 찾아내고 골라써야 대중에게 리해

되고 접수되는 훌륭한 언어형상을 창조할수 있다.

언어형상에서 주체적립장을 견지하자면 고유한 우리말을 적극 살려 쓰는데도 힘을 넣어야 한다.

고유어는 다른 민족어의 침습을 받지 않고 그 민족이 대대로 창조하고 발전시켜온 민족적특성을 가장 뚜렷하게 가지고있는 언어이다. 고유어는 민족어에서 기본을 이룬다. 고유어는 민족의 고유한 심리와 정서를 그대로 반영한 언어요소이므로 글의 민족적색채를 돋우고 민족적정서를 살리는데 효과적이다. 우리의 고유어는 어감이 풍부하고 섬세한 정서적인 빔깔을 가지고있으며 표현이 다양하고 말소리의 울림이 아름답기 때문에 문학작품의 형상상과 서정성을 살리는데 매우 적중한 언어수단으로 된다. 우리의 고유어에 기초하여 씌여진 작품을 보면 대체로 다 서정이 짙고 생신한 형상적인 맛을 풍긴다. 불후의 고전적명작 『사향가』는 우리의 고유어를 리용하여 풍만한 형상미와 향토적인 서정미를 둔군 본보기작품이다. 내고향을 떠나올 때 나의 어머니 문앞에서 눈물 흘리며 잘 다녀오라 하시던 말씀이 귀에 쟁쟁하다고 노래한 1절이나 우리 집에서 멀지 않게 조금 나가면 작은 시내에 돌돌흐르고 어린 동생들 뛰노는 모양이 눈에 삼삼하다고 노래한 2절은 다 우리의 고유어에 기초하여 사람의 가슴속에 사랑하는 고향과 조국산천에 대한 사무친 애정의 감정을 불러일으키고있다. 우리의 문학작품은 다 고유어의 진맛을 돋구는 참다운 조선식작품으로 되어야 한다.

고유어를 살려쓰는것과 함께 외래어와 한자어를 될수록 새로 다듬는 우리 말로 바꾸어써야 한다.

세계에 다른 나라 말이 흘러들어오지 않는 날은 거의 없다. 특히 제국주위자들의 식민지로 있던 나라나 큰 나라들사이에 끼여있는 작은 나라인 경우에는 다른 나라 말의 침습을 더 많이 받게 된다. 이런 나라들에서 다른 나라 말과 글의 잔재를 없애버리지않고서는 민족어의 순결성을 지킬수 없다.

우리나라에서는 지금 고유한 우리말을 적극 살리는 한편 지난날 우리 말속에 흘러들어온 외래어와 한자어를 정리하는 사업이 힘있게 벌어지고 있다. 이것은 우리말의 민족적 특성을 고수하는 면에서는 물론, 북과 남사이에 언어의 이질화를 막는 데서도 중요한 방도로 된다. 지금 남조선에서 민족어가 심히 말살되고 있는데다가 북과 남의 거래들이 오랫동안 서로 갈라져 살아오면서 언어교류를 할 수 없었기 때문에 언어의 공통성이 사라질 수 있는 위험이 조성되고 있다. 이런 때 북은 북대로 남은 남대로 인민의 언어생활을 자연발생성에 내맡겨둔다면 오래지 않아 민족의 기본표징인 언어의 단일성마저 잃어버릴 수 있다. 비록 언어교류가 없는 조선에서도 북과 남이 같은 하나의 기준, 하나의 원칙을 내세우고 언어를 발전시킨다면 그런 사태를 미리 막을 수 있다. 북과 남이 다같이 고유조선말을 기준으로 삼고 언어의 기본대를 세우며 외래어와 한자어를 정리하며 우리말로 바꾸는 원칙에서 언어를 발전시킨다면 언어의 이질화를 미리 막고 그 순결성을 지켜낼 수 있을 것이다. 지난날 고유조선말은 공화국북반부에서도 널리 쓰여 왔고 남조선에서도 널리 쓰여 왔지만 미제에 의하여 국토가 분열된 다음부터는 사정이 달라졌다. 오늘 남조선에서 우리말은 그 순수성이 점차 사라지고 잡탕말로 변해가고 있다.

해방전까지 《표준어》로 삼아오던 서울말도 변질되어 영어, 일본어, 한자어 투성으로 되었으며 말투와 억양이 우리 민족의 전통적 미감에 맞지 않는 이상한 것으로 변하였다. 공화국북반부에서만은 우리 당의 올바른 언어정책에 의하여 예로부터 써오던 고유조선말이 순수하게 살아남아있으며 시대의 요구에 맞게 발전하였다. 혁명의 수도 평양은 우리말과 글의 민족적 특성을 가장 순결하게 고수하고 발전시킨 문화어의 중심지이다. 새롭게 발전한 오늘의 평양말을 기준으로 삼는다면 우리말의 순결성과 주체성을 살리면서 그것을 건전하게 발전시킬 수 있다. 평양문화어는 공화국북반부 전체 인민의 공동의 노력으로 창조하고 가

꾸어온 우리 민족어의 우수한 언어요소를 집대성하고 있으며 서울말을 비롯하여 남조선 각지에서 전통적으로 써오던 좋은 민족어요소도 흡수하여 발전시킨것이다. 남조선동포들과 해외동포들이 평양을 찾아올 때마다 평양문화어의 우수성에 대하여 찬사를 아끼지않고있는 것이 우연한 일이 아니다. 작가는 우리 당의 언어정책의 정당성을 누구보다 깊이 인식하고 평양문화어를 적극 살려써야 한다.

작품창작에서 외래어와 한자어를 많이 쓰는 경향은 작가의 낡은 언어관념과 관련되어 있다. 지난날 우리 나라의 봉건사대부들은 국문을 천시하고 한문을 숭상하면서 한문을 많이 아는 사람, 한자어를 많이 쓰는 사람을 유식한 사람으로 여기었다. 이런 낡은 관념은 해방후 우리 민족어발전에 적지 않게 방해를 주었으며 오늘까지도 그 잔재가 완전히 뿌리뽑히지 않고있다.

외래어와 한자어를 적게 쓰려면 다듬은 우리말을 많이 알아야 한다. 지금 체계적으로 외래어와 한자어를 우리말로 다듬고있는데 다듬은 말을 대중속에 보급하는데서 작가의 위치가 중요하다. 작가는 다듬은 말을 많이 알고 작품에 널리 리용하여야 한다. 새로 다듬은 말이 나오면 작가들이 먼저 작품에 받아들여야 한다.

언어 탐구와 형상에서 주체적립장을 철저히 지켜나가려면 위대한 수령님의 혁명적문풍을 따라배워야 한다.

위대한 수령님께서는 쉬임없이 사상리론활동과 문필활동을 벌리시는 과정에 우리 시대의 가장 혁명적이며 인민적인 문풍을 창조하시였다. 수령님의 문풍은 우리의말과 글을 인민대중의 요구에 맞게 자주적으로 발전시키는데서 나서는 원칙적요구를 가장 숭고한 높이에서 해결하고 완성한 혁명적이며 인민적인 문풍의 귀감이다.

수령님의 문풍을 따라배우기 위하여서는 수령님의 독창적인 언어 사상과 리론으로 무장하여야 하며 수령님의 교시와 로작을 많이 읽고 새 기면서 문장의 단어표현의 묘미를 원리적으로 깊이 채득하여야 한다.

작가는 수령님의 교시와 로작에서 우리말의 민족적특성을 전면적으로 발양시킨 측면, 당적이며 로동계급적인견지에서 문제를 제기하고 깊이 있게 해명한 측면, 인민이 알아들을수 있는 쉬운말로 심오한 뜻을 표현한 측면, 독창적인 새로운 표현을 탐구한 언어구사의 빛나는 모범을 창작에 적극 구현하여야 한다.

언어 탐구와 형상에서는 사실주의원칙을 철저히 구현하는 것이 중요하다.

언어는 사실주의와 반사실주의, 진보적문학과 반동문학의 계선을 가르는 주요한 분기점이다. 력대적으로 예술지상주의자들과 형식주의자들은 내용과 분리된 《순수형식》을 운운하면서 언어문제를 기본문제를 내세우고 궤변을 늘어놓았다. 오늘도 그들은 내용과 형식, 사유와 언어에 대한 형이상학적인 주장을 고집하고있다. 우리 작가들은 언어문제를 둘러싸고 사실주의적원칙을 고수하는데 각별한주의를 돌려야 한다.

언어구사의 사실주의적원칙에서 기본은 내용과 형식의 유기적통일을 보장하는 것이다.

내용은 보잘 것 없는데 언어만 가지고 잔재간을 피운 작품은 형식주의적인 작품이다. 생활에 대한 깊은 탐구가 없는데로부터 작품에 담을 사상감정과 생활내용이 빈약한 작가들이 흔히 서툰 말장난에 매달린다. 없는 내용을 말재주로 가리우고 분칠하는 것은 대중에 대한 회롱이다. 반대로 하고싶은 말도 많고 의의있는사상을 이야기하려고 애를 쓰면서도 말이 모자라 표현하지 못하는 작가는 언어의 예술가로서의 자격을 상실한 사람이다. 언어탐구에 품을 넣지 않은 작품은 내용도 볼맛이 없다. 그릇이 빛나야 담겨진 음식도 구미를 돋군다. 말이 반찬이 작품이나 언어가 미숙한 작품이나 문학의 사상예술성을 떨구는데서는 같다.

언어구사에서 내용과 형식의 유기적통일을 보장하자면 생활에 대한 깊은 탐구와 심오한 사색이 필요하다. 생활은 작가에게 내용을 제공하

고 내용은 그에 따르는 형식을 요구한다. 훌륭한 언어표현은 허공에서 생겨나는 것이 아니라 생활에 대한 깊은 탐구와 사색 과정에 발견된다. 생활에 대한 지식은 없고 사상감정이 메마르고 주의주장이 명백치 못한 작가에게는 언제 가야 깊이있고 기지있는 표현이 떠오를수 없다. 작가는 말을 가지고 재간피울 생각을 할것이 아니라 자기가말하려는 대상을 실지로 볼줄 알아야 하며 그의 본질과 의의에 대한 남다른 깊은 파악을 가지고있어야 한다. 사람은 자기가 아는것만큼 표현할수 있다. 한 인간이 가지고있는 언어의 총량은 인식과 사유의 총량과 맞먹는다는 말이 있다. 자기가 볼수 없는 대상, 자기가 파악하지 못한 본질은 그 어떤 미사려구를 써도 사람들에게 전달될수 없다. 그러므로 훌륭한 언어형상을 창조하기 위한 탐구의 첫공정은 언제나 묘사대상에 대한 풍부한 체험과 인식으로부터 시작하여야 한다.

언어형상에 깊은 뜻을 담아야 한다. 언어형상에 깊은 뜻을 담는 것 자체가 내용과 형식을 높은 수준에서 결합시킨다는 것을 의미한다. 명문장, 명표현, 명대사의 기본표징은 뜻이 깊은데 있다. 그래서 글속에 글이 있고 말속에 말이 있다고한다. 문학의 언어는 깊은 뜻을 담은 명문장, 명표현, 명대사로 되여야 한다. 문장과 표현 속에 깊은 뜻을 담을 줄 아는 재능은 생활의 의의를 깊고 폭넓게 파악하고 간결하게 나타낼 줄 아는 작가에게서만 볼수 있다.

작가는 대사형상에 각별한 주의를 돌려야 한다. 영화문학과 소설에서 대사를 랍발하는 현상이 있는데 이것은 영화와 소설의 기본형상수단에 대한 옳은 관점이 서있지 못함에도 있지만 기본은 작가의 사상적 의도를 영화의 행동선이나 소설의 묘사로 해결하지 못하고 대사를 통하여 직선적으로 로출시키기 때문에 대사가 필요없이 많아지지만 무게 있고 철학적깊이가 있는 대사는 별로 찾아볼수 없다. 대사를 망탕 랍용하는 일이 없어야 한다.

언어구사에서 내용과 형식의 유기적인 결합을 보장하기 위하여서는

정황과 대상에 맞는 표현을 탐구하여야 한다. 우리 문학의 주인공들은 정치성과 인간성이 결합된 인간이다. 대사형상은 인물의 정치리념과 개성을 집중적으로 반영하는 동시에 말할 때의 주의분위기와 환경에 꼭 들어맞아야 한다. 묘사문, 주정토로문, 설명문 같은 작가의 말인 경우에도 마찬가지이다. 작가의 말은 그 하나하나가 대상과 그것이 처한 정황, 작가의 사상감정 그리고 작품의 양상에 다같이 부합되는 표현이어야 한다. 작가의 말이라 하여 주관에 빠져 제멋대로 늘어놓으면 대상과정황을 과장할수도 있고 왜소화할수도 있으며 결국 내용과 형식의 불일치를 가져올수 있다.

해당 시기의 생활과 시대상을 선명하고 진실하게 보여주려면 그 시대어의 언어생활을 정확히 반영하여야 한다. 작가의 말인 경우에는 역사물이라고하여 전적으로 그 시기의 언어를 그대로 살려쓸수는 없다. 역사물에서 작가의 말은 오늘의 조선문화어를 쓰면서 해당 역사적시대의 상용어휘와 상용어투를 시대적표상이떠오를수 있게 맞이나 보이는 정도로 리용하여야 한다. 시대에 맞게 언어생활을 반영하는데서 특별히 잘 골라서 쓰는것이다. 지난 시기의 생활을 오늘의 견지에서 파악하고 의의있게 묘사하여야 하지만 역사주의적원칙을 떠나서 없던 것을 만들어내거나 없던 것을 제멋대로 개작하여 내놓아서는 절대로 안된다.

언어구사의 사실주의원칙을 구현하는데서는 개성적인 참신한 표현을 탐구하는것도 중요하다.

일상생활에서 사람의 사상감정과 문화도덕수준, 직업과 지식정도, 기호와 취미가 거의나 말을 통하여 표현되는것처럼 작가의 세계관과 창작적개성도 언어를 통하여 그대로 드러난다. 언어는 사람의 마음속을 들여다볼수 있게 하고 밖에 내비칠수도 있게 하는 《창문》이라고 할수 있다. 문학의 언어는 공식적인 사무분야와 신문보도, 과학기술분야의 언어와 달리 생동하고 정서있고 개성적인 특성을 가진다. 이러한 형상

적특징가운데서도 주되는것은 개성적인 특징이다. 언어는 개성화되어야 생동해지고 정서가 깃든다. 언어형상의 개성화는 남보다 류별나게 말하거나 색다르게 표현하려는 의도에 의하여 이루어지는 것이 아니라 체험한 사실과 느낀 사상감정을 진실그대로 보다 정확하고 보다 명백하게 드러내보이려고 애쓰는 과정에서 이루어진다. 문학의 언어는 개성화될수록 독창성과 참신성이 많이 좌우된다. 문학작품에서는 언어가 새롭지 못하면 그에 담겨지는 내용도 새로 올수 없다.

작가는 다른 작품에서 쓴 표현은 원칙적으로 다시 쓰지 말아야 한다. 아무리 예술적으로 세련된 명문장, 명대사라고 하여도 한 번 이상 가치를 가질수 없으며 그것이 모든 작가의 절대적인 기준으로 되는것도 아니다. 작가는 될수록 기발하게 착상하고 생신한 표현과 어휘를 골라써야 한다. 불후의 고전적명작『3인 1당』에서 세 정승이 서로 자리다툼을 하는 말싸움장면은 대사를 개성화한 좋은 실례이다. 세 당파에 속해있는 군대를 통합하는 것이 백마국의 침입을 막고 나라를 구원하는 유일한 길이라고 주장하는 박정승의 대사나 강약이 부동한 정황에서는 큰 나라에 원병을 청하는 것이 현명한 방책이라고 주장하는 문정승의 대사나 위급한 때에는 한걸음 물러서서 사태를 수습하고 힘을 키워야 한다고 우기는 최정승의 대사는 다 인물의 성격적특징을 표현하는 가성적인 말로 되어있기 때문에서로 통상에 올라앉으려고 회유와 권모술수, 사기와 협잡, 배신과 매국을 하면서 무서운 각축전을 벌리는 세 정승의 표리부동한 물골을 생동하게 드러내고 있다. 사람들은 이 장면을 무대에서 직접 보지 않고 대사만 읽어보아도 큰 몸집에 여차하면 칼부터 빼드는 무관형의 무지막지한 박정승과 말끝마다 왕족출신이라고 점잔을 빼지만 속에 흥심을 품은 문정승과 교활하고 표독스럽기 그지 없는 최정승의 성격적특징을 생동하게 그려볼수 있을 것이다.

우리 문학에서 언어형상의 개성화를 확고히 보장하기 위한 결정적인 방도는작가들이 자기 식의 독특한 문체를 확립하는것이다. 지금 우리

나라에는 자기의 똑똑한 문체를 가지고있는 작가가 얼마 되지 않는다. 자기 문체를 못가진 작가는 진짜 작가가 아니다. 작가라면 자기의 뚜렷한 언어적개성을 가지고 창작에서 매번 남과 구별되는 독특한 언어형상을 들고나와야 한다. 서사시『백두산』을 지은 조기천은 자기 문체를 가진 재능있는 시인이라고 할수 있다. 그가 쓴 시적표현은 매우 독특하고 기발한것이 기때문에 누구도 그것을 모방할수 없다. 그대로 표절하지 않고 약간 그 비슷한 맛이 풍기는 표현으로 돌려써도 인차 그의 시적표현을 모방했다는 것이 나타날수 있다. 작가는 그 누구도 모방할수 없는 자기의 얼굴, 자기의 고유한 언어말을 가지고 문단에 나서야 한다.

작가가 자기의 문체를 가지고 생신한 언어형상을 창조하는 것은 자질과 기량에 달려있다.

언어구사의 비결은 전적으로 작가의 재능에 달려있다. 풍부한 표현력과 일반화의 가능성을 가진 언어수단의 위력은 작가가 언어를 어떤 방법으로 어떤 수준에서 리용하는가에 따라 결정된다. 작가는 형상수단과 수법에 정통하고있을 때에만 그것을 자기의 의도에 맞게 충분히 리용할수 있으며 그 과정에 자기 식의 투를 가지게 된다. 작가야말로 가장 많은 어휘의 소유자, 언어구사의 명수가 되어야 한다.

(『문화어학습』, 1993년 2호 3-8)

註

- (1) この『주체문학론 (主体文学論)』は金正日が1992年1月20日に発表したものである。これは全7章32節で成り立っている。5章6節に「언어형상에 문학의비결이 있다 (言語形象に文学の秘訣がある)」が掲載されている。
- (2) 北朝鮮では金日成がいうことを「教示」といい、金正日がいうことを「指摘」または「談話」という。

- (3) 拙稿、「北朝鮮における言語政策—金正日の「第1次談話」・「第2談話」・「第3談話」の全文翻訳—」、『語研紀要』第38巻第1号、愛知学院大学、2013年、246参照。
- (4) 同上論文、247-248参照。
- (5) 1972年に発表した映画である。その制作には金正日も関与したとされる。その内容は北朝鮮の社会と文化を紹介するかたわら、共産主義革命の正当性を宣伝する映画である。
- (6) 1987年に制作された北朝鮮の労力動員のための映画である。
- (7) この歌は、金日成が1930年代に自ら作詞したとされる革命歌謡である。
- (8) 1929年、金日成が直接創作したといわれる革命演劇である。その内容は、初期の抗日パルチザン活動を行っていた時の民族主義陣営と共産主義陣営の間に起こった紛争と分裂に反対するものである。
- (9) これは趙基天（1913年～1951年）が1947年に発表した作品で、彼の代表的な長編叙事詩である。これは北朝鮮の革命的な伝統思想を表現した記念的な作品と評価されている。
- (10) 趙基天は、咸鏡北道の會寧で生まれる。彼はソビエトと北朝鮮で一級詩人として活躍した。1951年に国旗勲章2級を授与された。

参考文献

- 김정일、「언어와 민족문제 (1964.2.20)」、『문화어학습』、1995년 2호
「언어형상에 문학의 비결이 있다」、『주체문학론』、1992년
- 김민수외、「김정일 시대의 북한언어」、태학사、1997
- 文嬉眞、「北朝鮮における言語政策」、『語研紀要』第35巻、愛知学院大学、2010
「北朝鮮における言語政策」、『語研紀要』第36巻、愛知学院大学、2011
「北朝鮮における言語政策」、『語研紀要』第37巻、愛知学院大学、2012
- 大阪外国語大学朝鮮語研究室編、『朝鮮語大辞典』上・下、角川書店、1986
한글학회、『우리말큰사전』、어문각、1992
- 사회과학원、언어학연구소、『조선말대사전 (증보판)』 3권、사회과학출판사、2006、2007

